

# IFRS-AC 会議(2013年2月)出席報告

公益社団法人 日本証券アナリスト協会  
参与・教育第二企画部長  
金子 誠一

2月25日、26日の両日、ロンドンにおいて開催された国際財務報告基準(IFRS)財団のIFRS 諮問会議(IFRS-AC)\*の概要について下記のとおり報告します。

\*国際会計基準審議会(IASB)に対し、検討事項やその優先順位をアドバイスするための組織。従来は基準諮問会議(SAC)と呼ばれていたが、2010年4月に名称変更した。委員は45名強。日本からは証券アナリスト協会代表の筆者(金子)に加え、経団連代表の村岡富美雄(株)東芝取締役監査委員会委員長が委員。他に金融庁がオブザーバー(発言権あり)で参加。IFRS-AC 会議は年に3回、ロンドンで開催される。今回、金融庁からは氷見野良三審議官および園田周企業開示課課長補佐が出席。

## 記

### 1. 議事一覧

番号	日時	議事
(1)	25日 9:00-9:30	開会
(2)	同 9:30-10:30	IASB の活動報告
(3)	同 10:45-11:30	トラスティの活動報告
(4)	同 11:30-12:00	モニタリングボードの活動報告
(5)	同 13:15-16:15	ASAF について (説明・分科会・全体会議)
(6)	同 16:15-17:15	リサーチ
(7)	26日 9:00-9:30	デュープロセス・ハンドブック
(8)	同 9:30-10:25	XBRL
(9)	同 10:25-11:00	IFRS の世界での適用
(10)	同 11:00-13:30	ディスクロージャー
(11)	同 13:30-14:10	IFRS9
(12)	同 14:30-15:00	まとめ・閉会

\*会議資料および録音は下記から入手できる。

<http://www.ifrs.org/Meetings/Pages/AC-Feb12.aspx>

### 2. 議事概要

上記議事一覧に従い、日本からの参加者の発言要旨にも触れながら議事概要を紹介する。

#### (2) IASB の活動報告

Hoogervorst IASB 議長およびIASB スタッフより最近の基準開発動向について説明。保険については、慎重な対応を求める業界出身委員のコメントに対し、Hoogervorst 議長は、わが国の長期的な低金利にも触れながら、検討を開始してから10年以上経っているのに基準が出来ないのは恥ずかしいとしていた。

EFRAG (欧州財務報告諮問グループ)出身の委員が、収益認識について Review Draft を出して欲しいと強く主張し、欧州出身の委員を中心に複数の賛同意見があった。Review Draft とは、実際の会計基準案に大きな間違いがないかどうか確認するために、関係者に読んでもらう手続きを指し、IASB の Due Process 上の必須事項ではないが大きな基準の場合には行われることがある。この要望に対し、IASB は時間の制約を理由に難色を示し、委員の中にも不要とする意見もあり、収益認識についての Review Draft は見送りとなった。

金融商品の減損について、FASB 案とのコンバージェンスを図って欲しいという意見があった。Hoogervorst 議長は、公開草案へのコメント期間を一部同期化することによって、コンバージェンスの余地を残してあるが、金融規制当局からは、完全なコンバージェンス抜きでも早く基準にして欲しいという圧力があると説明していた。

### (3) トラスティーの活動報告

Prada IFRS財団トラスティー議長から活動内容の報告。各国のIFRSへの取り組みを評価する中で、中国についてはほぼIFRSを採用とする一方、日本については、前向きではあるが複雑な状況としていた。米国については、コンバージェンスが終了する中で、次の方向を模索している段階と説明していた。また、IFRS財団は米国の拠出不足もあり、このままだと資金不足になる見込みで、対策を講じているとの報告があった。

### (4) モニタリングボードの活動報告

金融庁の園田課長補佐よりモニタリングボードについて、①暫定議長を務めてきた河野金融庁国際政策統括官が 2 年間の任期で正式議長に就任した、②モニタリングボード・メンバーの資格要件である『IFRS の使用』の定義について合意し近くプレスリリースする、との報告があった<sup>1</sup>。

### (5) ASAF について

今回の会議では ASAF(Accounting Standards Advisory Forum、会計基準アドバイザリー・フォーラム)について、小グループに分かれての検討を含め最も時間を使って議論した。結論としては、ASAF の創設を支持する意見がコンセンサスであった。一部に IFRS 諮問会議と ASAF の住み分けについての懸念もあったが、Hoogervorst IASB 議長が ASAF 議長も勤めるので問題は生じないだろうというのが大勢の見方であった。Hoogervorst 議長は「新しい組織を作ると、既存の組織は嫉妬するものだが、それがなくて嬉しい」と述べて微笑を誘っていた。

### (6) リサーチ

IASB は基準開発の迅速化等を目的に、リサーチ機能の充実化を図ろうとしており、IASB のスタッフから計画の概要について説明があった。コストとベネフィットについて、どう考えるのかという質問があり、スタッフは効果分析を行って検証すると答えていた。

### (7) デュープロセス・ハンドブック

最近改訂されたデュープロセス・ハンドブックの概要についてスタッフから説明あり。Hoogervorst 議長からデュープロセスの規定が IASB の基準開発の障害になっていることはないとの補足があった。

---

<sup>1</sup> プレスリリース(3月1日)は下記から入手できる。

[http://www.iosco.org/monitoring\\_board/pdf/Press20130301-1.pdf](http://www.iosco.org/monitoring_board/pdf/Press20130301-1.pdf)

## (8) XBRL

IASB の XBRL タクソノミー等への取り組みについてスタッフから説明。XBRL については立場による意見の相違が大きく様々なコメントがあり、今後も継続して検討することとした。日本は XBRL 活用の先進国であり、氷見野審議官から日本基準のみならず IFRS ベースのタクソノミーも適用済みであり、EDINET タクソノミーとしては、MD&A(Management's Discussion and Analysis、経営者による業績評価・分析)等への XBRL の適用の準備を進めているとの説明があった。

## (9) IFRS の世界での適用

IFRS 財団は各国の基準設定主体等を対象に IFRS の採用状況等について実態調査を行い、その結果の説明があった。カーブアウトの詳細等について、より細かな分析をしてほしいとの要望があったが、Hoogervorst 議長は分析の掘り下げは今後の課題としていた。

## (10) ディスクロージャー

EFRAG のスタッフから、EFRAG が発行したディスクロージャーに関する討議資料へのコメントの紹介、IASB スタッフから 1 月に開催されていたディスクロージャー・フォーラムに関する報告があった。ディスクロージャーについては重要性の原則の適用方法、MD&A との住み分けが重要であるという見方が強かった。これに対し、IASB のスタッフは短期的には財務諸表と注記との整理に集中し、MD&A との関連は長期的に取り組みたいと述べていた。

## (11) IFRS9

IASB は保険の会計基準等への対応を目的に FVOCI と呼ばれる新たな金融商品評価区分を設定する意向であり、スタッフから概要説明があった。一部の委員から旧来の売却可能有価証券と似ていて混乱を招くという懸念が表明された。また、金融商品会計全般について FASB とのコンバージェンスをして欲しいという要望もあった。

以 上